

こどもと健康

NO・156 2015・4・22

新学期始まる！

4月になって、保育所入所、幼稚園入園、新入学、進級など子ども達にとって生活環境が大きく変わりました。2週間余り経過してやっと少し慣れてきた頃でしょうか？生活環境の変化は子ども達にとって目に見えぬストレスとなり、体調を崩す子もいます。特に、保育所や幼稚園で初めて集団生活をする子ども達は感染の機会が増えますので、カゼをひいたり、流行している感染性胃腸炎、溶連菌感染症、手足口病などをもらって帰るかもしれません。「五月病」という言葉がありますが、暫く体調の変化に注意しましょう。

ワクチンで予防できるものはワクチン接種を受けましょう。年度が変わりましたので、就学前年の年長組のはしか・風疹混合(MR)ワクチン、小学6年生のジフテリア・破傷風混合(DT)ワクチンが受けられます。1歳になったらMRワクチン、みずぼうそうワクチンの1回目とヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンの追加があります。3歳児は日本脳炎ワクチンが始まります。その他、おたふくかぜワクチン、B型肝炎ワクチン、3歳以上の2回目のみずぼうそうワクチン等の任意接種もやっておきたいものです。母子手帳の予防接種欄を見直して下さい。空欄があれば未接種かもしれません。一度、ご相談下さい。

日本が麻疹(はしか)の排除状態に！

WHO西太平洋地域事務局は3月27日に「日本が麻疹(はしか)の排除状態にある」と認定しました。「はしか」は昔から「命さだめ」と言われるように、一生に一度罹る重症の感染症で感染力が強いのが特徴です。幸い、ワクチンの普及により患者数は減少していましたが、2006年春から関東を中心に成人の「はしか」が拡大した為、同年4月からはしか・風疹混合(MR)ワクチンが就学前の年長組に2回目の接種(2期)が開始となりました。2007年の春、創価大学等大学生を中心に「はしか」の流行があり、大学の休校が相次ぎました。堺市でもゴールデンウィーク以降になって3年ぶりに患者報告があり、次第に拡大、府立堺工科高校では40名余の患者が発生、2週間休校に追い込まれました。翌2008年には中学1年生の3期と高校3年生の4期ワクチン接種が始まりましたが、全国で患者数が11,013人(大阪府394人)となりました。この大流行でやっとワクチン接種を受ける人が増え、2009年732人、2010年447人と患者数は減少していききました。3期、4期のワクチン接種は2012年度末で終了し、現在は1期(1歳児)と2期のみとなっています。その後も患者数は順調に減少し、2013年には全国で僅か229人(大阪府15人)となりましたが、昨年は輸入例(特に、フィリピンで大流行した為、旅行者が持ち帰って地域に拡大した)が増加した為、463人(大阪府46人)と増加が見られます。しかし、もともと日本で流行していた土着株はこの3年間検出されない為、3月27日にWHO西太平洋地域事務局は「日本が麻疹の排除状態にある」と認定しました。

地域の住民の95%がワクチン接種していると大規模な「はしか」の流行は起こらないと言われています。従って、今後学校で「はしか」の流行が起こるとは考えにくいのですが、現在でも辛うじてMRワクチン接種率95%ですので、油断はできません。特に、堺市では一昨年は2期の接種率が95%に届きませんでした。「排除」宣言がありました。2回のMRワクチン接種を忘れずに受けましょう。現に、ずっと以前に排除宣言された筈のアメリカで、昨年末にロサンゼルスディズニーランドを発端に職員3名を含む103名が感染した事例（この事例もフィリピンでの流行株と言われています）も報告されています。

手足口病、流行中！

手足口病はコクサッキーウイルスの感染による夏型感染症の代表ですが、感染症サーベイランスによると、1月26日からの第5週に第5位に浮上してきました。その後も増加が続き、3月2日からの第10週以降は第3位となっており、4月と共に流行拡大が懸念されます。

基本的には手足口病は軽症の感染症で、コクサッキーウイルスA16型が最多で、A10型、A2型等やエンテロウイルス71型でも発症します。カゼと同じく飛沫感染の他、経口感染もあり、潜伏期は3～7日と言われます。例年春から初夏に流行が始まりますが、今年は例外のようです。症状は病名の通り、手のひら、足の裏、口の中出来る小水疱です。発疹は膝からお尻にかけて出ることもあります。口の中の水疱は痛みを伴います。発熱は37～8℃の微熱が2、3日出ることもあります。時に高熱を伴い脳炎・脳症を合併することもあります。エンテロウイルス71型の感染のケースが殆んどですが、高熱を伴う手足口病は要注意です。特別の治療はありませんが、痛みの為食欲が落ちますので、口当たりの良い刺激のない食事を与えましょう。熱が下がり、口の中の水疱がなくなって食欲があり元気であれば、登園は可能です。

インフルエンザほぼ終息！

昨年11月下旬から例年より早く流行が始まったインフルエンザは年末最終週には大阪府では定点当たり33.6、堺市31.6と警報レベルを超え、成人に大流行しました。年が明けて3学期が始まると、学校に流行が拡大し、1月16日からの第4週には定点当たり大阪府28.1、堺市では26.4をピークに次第に減少してきました。ウイルス検査ではA香港型が殆んどで、3月になってB型が増加して、患者数は一次若干増加しましたが、その後春休みと共に減少し、直近の4月6日からの第15週には定点当たり全国で1.6、大阪府1.2、堺市1.1と流行の目安の定点当たり1に近づき、ほぼ終息したと思われる。

堺市こども急病診療センター7月1日開院！

現在堺市の小児初期（一次）救急は私が管理医師をしている堺市泉北急病診療センターが担っていますが、今年の7月1日にJR津久野駅南の家原寺町に移転新築される堺市総合医療センターに隣接して堺市こども急病診療センターが建築工事中です。小児科はこども急病診療センターに集約され、泉北急病診療センターは土曜、休日の内科のみになり、宿院急病診療センターは廃止されます。泉北ニュータウンから少し距離が遠くなりますが、堺市の小児救急医療体制を継続的に維持する為ですので、ご理解下さい。これにより堺市の小児救急は一次から二次、三次まで同じ場所で連携して行われることとなります。なお、詳しい検査や入院が必要な患者さんは隣の堺市総合医療センターだけでなく、ベルランド総合病院、大阪労災病院、清恵会病院、耳原総合病院、近大堺病院の当日当番の後送病院に紹介されるのは従来通りです。